



山科区シンボルマーク

# 平成20年度山科区運営方針



**21世紀 躍動とふれあいのまち・山科区**

平成20年6月

京都市山科区役所

## 目 次

|                       |       |
|-----------------------|-------|
| はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・  | P 1   |
| 1 区役所の果たす役割・・・・・・・・   | P 2   |
| 2 山科区の現状・・・・・・・・      | P 3   |
| 3 まちづくりの目標・・・・・・・・    | P 8   |
| 4 平成19年度の取組・・・・・・・・   | P 1 2 |
| 5 平成20年度の重点課題・・・・・・・・ | P 1 5 |
| 6 その他の山科区主要事業・・・・・・・・ | P 1 9 |

表紙写真（左上から時計回りに）

陶器まつり，はねず踊り，六地藏めぐり，山科義士まつり

### 山科区シンボルマーク

山科区誕生30周年を記念して，平成18年度に公募，策定されました。

Yamashinaの「Y」をモチーフとして，芽生えた双葉から「緑」，取り囲む楕円形で「水」，その周りを巡る様で「歴史」が描かれており，また，斜めにする事で躍動感を表し，山科区の進歩と発展を願っているものです。

## はじめに

山科は、古くから交通の要衝の地として栄え、「山科があつて京都が生まれた」とも言えるほど、脈々と受け継がれてきた歴史と伝統を持つまちです。

また、区民の方々により、これらの歴史と伝統を守るための取組やより良いまちづくりのための取組が活発に行われているまちでもあります。

山科区では、このまちづくりを区民・事業者・行政の三者のパートナーシップの下で推進するための計画として、「21世紀 躍動とふれあいのまち・山科区」を将来像とする山科区フロンティア計画を策定し、各種の取組を進めています。

今回策定した「平成20年度山科区運営方針」は、この計画の実現に向けて、区役所をはじめとする行政機関が今年度、重点的に取り組む項目をお示ししたものです。

この運営方針を策定、公表することにより、区民の皆様と情報の共有を図るとともに、様々な御提案や御意見をお伺いし、今後の区政運営に生かしていきたいと考えております。

今後とも多くの区民の皆様とまちづくりについての思いを共有し、躍動とふれあいのまち山科区の実現に向けて努力して参りますので、一層の御理解、御協力をいただきますよう、よろしくお願い致します。

山科区長 廣 田 吉 昭

# 1 区役所の果たす役割

## (1) 山科区基本計画推進における区役所の役割

山科区役所は、区民の皆様の最も身近な行政機関として、戸籍、住民票、印鑑登録、税務、国民健康保険、福祉、保健などの日常生活に欠かせない業務を適切、かつ、効率的に推進しています。また、個性豊かで魅力あふれるまちづくりを区民の皆様とともに進める役割を担っています。

山科区では、平成22年までの10年間を計画期間とし、21世紀のまちづくりの指針となる、山科区フロンティア計画を、平成13年1月に策定しました。この計画は区民の皆様の「自分たちのまちは自分たちでつくる」という熱い思いを結実する形で策定されており、山科区を一層魅力あふれるまちとして発展させ、誰もがこの地に暮らすことを誇りに思えるまちとすることを目指しています。

その推進に当たっては、区民・事業者・行政の三者がそれぞれの役割を認識し、それぞれの立場で取組を展開する必要があります。

山科区役所では、区民の皆様とのパートナーシップの下、山科区運営方針に掲げる事業等を着実に実施し、山科区フロンティア計画に掲げる躍動とふれあいのまち山科区の実現を目指します。

## (2) 山科区運営方針の主な推進体制

区民の皆様とのパートナーシップにより山科区フロンティア計画、山科区運営方針に掲げる取組を推進するため、山科区長のリーダーシップの下、区内の各種団体との連携を一層強化し、行政サービスの更なる向上を図ります。

### “やましな21” 推進会議

各種団体等の代表により構成されており、山科区フロンティア計画の五つの基本施策ごとに部会を設け、計画の進ちよく状況の把握や情報交換を行っています。また、山科区フロンティア計画の計画期間の後半5年間（平成18年～平成22年）については、より一層の推進を図るため、計画の中から24の重点目標を定め、各団体ごとに取組を進めることとしています。

### 山科区行政推進会議

区行政の総合的な推進を図るため、区行政の状況把握のための情報交換と区民の皆様からの要望等に基づく課題の解決に向けた分野横断的な協議・調整を行う機関として、区内行政関係機関の参画の下、設置しています。

### 山科区役所経営会議

区行政に係る施策・事業の企画立案を行うとともに、山科区役所における各種事業の効率的な執行を行うため、区役所内に設置しています。

### さわやか職場推進委員会

区民の皆様により「満足」していただける行政サービスの提供を目指して、市民応対窓口サービスの向上に取り組むために、山科区役所内に設置しています。

## 2 山科区の現状

### (1) 山科区の歴史

山科一帯は、既に、平安時代に山城国宇治郡山科郷という名で呼ばれていました。

古くは縄文時代からの足跡が今も残されており、芝町遺跡や中臣遺跡から発掘された土器、石器類、万葉ロマンの世界をしのばせる天智天皇陵や山階寺（奈良市にある藤原氏の氏寺である興福寺の前身）のほか、平安時代から存在し、数々の伝説を秘める有名社寺や中世に広大な寺内町を築いた山科本願寺跡、江戸時代の風景を思い起こさせる旧東海道の遺跡など、脈々と受け継がれてきた歴史をたどるのに大変恵まれた地です。

また、山科は大石内蔵助が討ち入り前に隠れ住んでいたと言われており、赤穂義士にまつわる史跡の数々が今日まで伝えられています。こうしたことから、毎年12月14日には、討ち入りなどを再現する「山科義士まつり」が多くの区民の参加の下、盛大に開催されています。

行政区の変遷としては、宇治郡山科町が昭和6年に京都市東山区に編入されました。その後、昭和26年の支所開所を経て、昭和51年10月に東山区からの分区・独立により、現在の山科区となり、平成18年に区誕生30周年を迎えました。

天智天皇陵



山階寺跡推定地の碑



大宅一里塚



旧東海道碑

## (2) 山科区の地勢と現況

山科区は、京都市の東端に位置し、京の東の玄関口としての役割を担っています。西は東山連峰、北は大文字山、如意ヶ嶽、東は音羽山、牛尾山と三方を山に囲まれ、南で伏見区の醍醐地域に接しています。

また、多くの川に恵まれ、安祥寺川、四ノ宮川、音羽川など、山々からの豊かな流れが、区の南部で山科川に合流しています。押し流されてきた土砂の恩恵を受け、平野部は農耕作物に適した土壌となっています。

明治初期に京都の近代化を目指して建設された琵琶湖疏水では、桜のシーズンになると多くの人々が散策を楽しみます。

山科区は清水焼、京仏具、京扇子などの伝統産業の生産団地を抱えていることに加え、金属箔、金属粉などの産業が発達しています。

都市基盤の面では、地下鉄東西線が六地藏から太秦天神川まで延伸されたほか、JR山科駅などのバリアフリー化や同駅前再開発「ラクト山科」のまちびらきなどにより、区民の生活利便性が更に向上しています。

琵琶湖疏水（山科疏水）



清水焼団地総合展示場

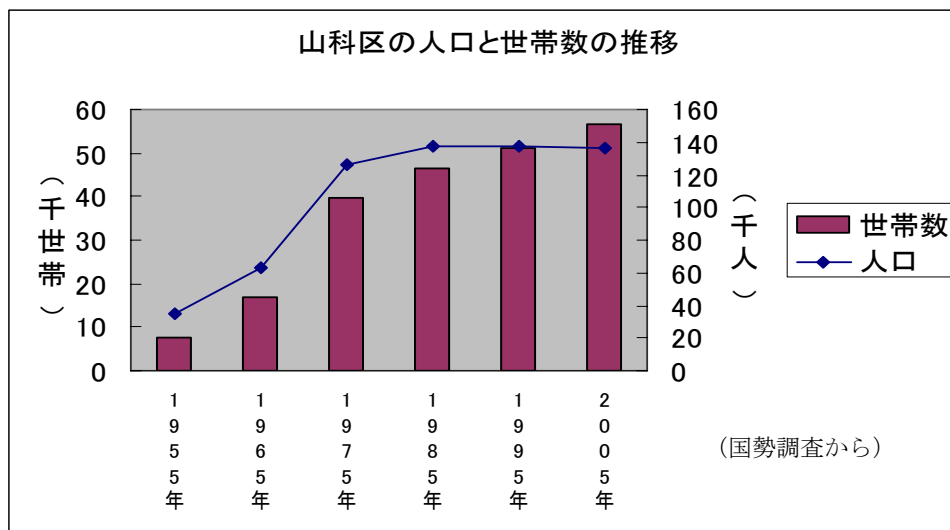


山科区全景

### (3) 山科区の統計データ

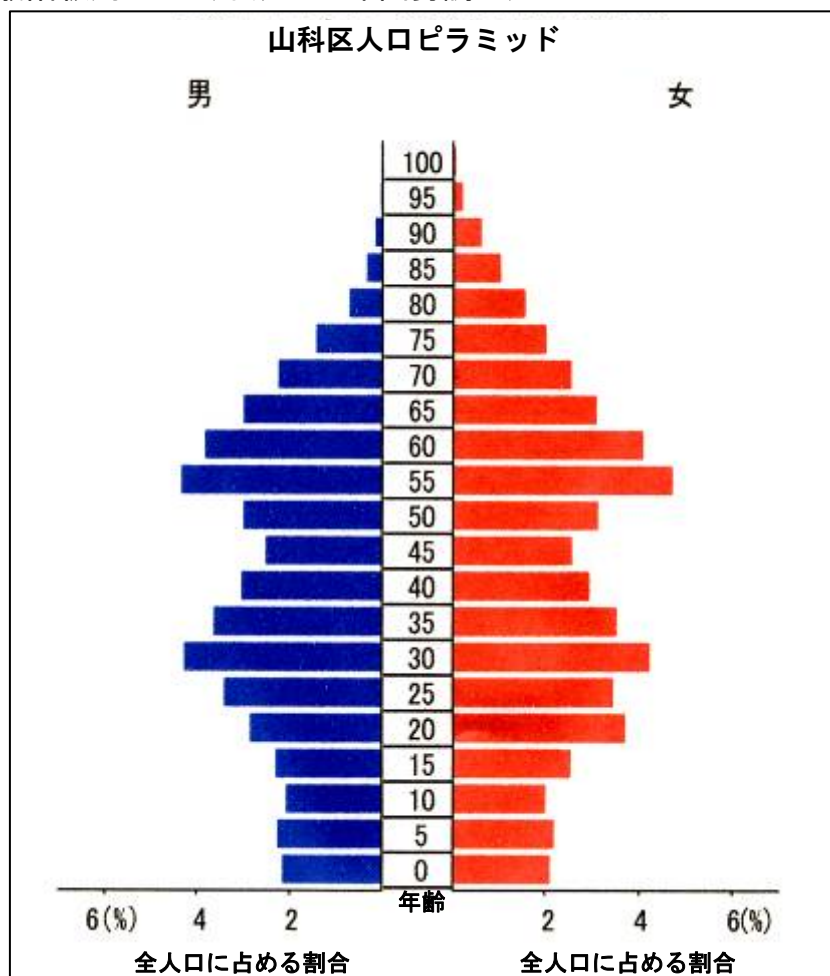
|       | 人口<br>(人) | 男<br>(人) | 女<br>(人) | 世帯数<br>(世帯) | 高齢化率<br>(%) |
|-------|-----------|----------|----------|-------------|-------------|
| 京都市   | 1,474,811 | 703,210  | 771,601  | 653,860     | 22.4        |
| 山科区   | 136,670   | 65,206   | 71,464   | 56,429      | 18.9        |
| 勸修学区  | 13,197    | 6,074    | 7,123    | 5,733       | 18.2        |
| 山階学区  | 7,315     | 3,361    | 3,954    | 3,481       | 19.6        |
| 鏡山学区  | 12,906    | 6,229    | 6,677    | 5,615       | 20.3        |
| 音羽学区  | 8,918     | 4,275    | 4,643    | 3,847       | 19.6        |
| 安朱学区  | 6,286     | 2,848    | 3,438    | 2,978       | 20.3        |
| 陵ヶ岡学区 | 11,384    | 4,996    | 6,338    | 4,461       | 33.9        |
| 大宅学区  | 18,419    | 9,497    | 8,922    | 7,167       | 15.6        |
| 山階南学区 | 10,219    | 4,986    | 5,233    | 4,037       | 16.3        |
| 百々学区  | 11,585    | 5,621    | 5,964    | 4,597       | 16.7        |
| 大塚学区  | 12,309    | 5,951    | 6,358    | 4,735       | 16.5        |
| 小野学区  | 10,474    | 4,993    | 5,481    | 4,039       | 13.5        |
| 音羽川学区 | 8,584     | 4,005    | 4,579    | 3,521       | 17.4        |
| 西野学区  | 5,074     | 2,370    | 2,704    | 2,218       | 20.7        |

(平成17年国勢調査から)



山科区の年齢5歳階級別人口（平成17年国勢調査）

|        | 人口(人)   |        |        |
|--------|---------|--------|--------|
|        | 総数      | 男      | 女      |
| 総数     | 136,670 | 65,206 | 71,464 |
| 0～4歳   | 5,789   | 2,915  | 2,874  |
| 5～9歳   | 6,065   | 3,079  | 2,986  |
| 10～14歳 | 5,540   | 2,831  | 2,709  |
| 15～19歳 | 6,589   | 3,130  | 3,459  |
| 20～24歳 | 8,945   | 3,895  | 5,050  |
| 25～29歳 | 9,405   | 4,667  | 4,738  |
| 30～34歳 | 11,659  | 5,851  | 5,808  |
| 35～39歳 | 9,772   | 4,948  | 4,824  |
| 40～44歳 | 8,155   | 4,139  | 4,016  |
| 45～49歳 | 6,963   | 3,453  | 3,510  |
| 50～54歳 | 8,374   | 4,097  | 4,277  |
| 55～59歳 | 12,402  | 5,963  | 6,439  |
| 60～64歳 | 10,826  | 5,214  | 5,612  |
| 65～69歳 | 8,328   | 4,115  | 4,213  |
| 70～74歳 | 6,497   | 3,064  | 3,433  |
| 75～79歳 | 4,650   | 1,957  | 2,693  |
| 80～84歳 | 3,075   | 959    | 2,116  |
| 85～89歳 | 1,842   | 438    | 1,404  |
| 90～94歳 | 1,014   | 200    | 814    |
| 95～99歳 | 338     | 57     | 281    |
| 100歳以上 | 49      | 8      | 41     |
| 年齢不詳   | 393     | 226    | 167    |
| (再掲)   |         |        |        |
| 15歳未満  | 17,394  | 8,825  | 8,569  |
| 15～64歳 | 93,090  | 45,357 | 47,733 |
| 65歳以上  | 25,793  | 10,798 | 14,995 |





#### (4) 山科区の抱える課題

##### ア ベッドタウン化の進展と住民の居住要望の高まり

山科区はベッドタウンとして発展してきた地域です。

そして、近年の地下鉄東西線の延伸による交通利便性の更なる向上や、「ラクト山科」のオープンによるまちの拠点性の高まりは、今後も多くの人々の、住み続けたい、また住んでみたいという需要を高め、土地利用転換や新規開発等による住宅建設は今後も続いていくと考えられます。

##### イ 問題を抱えた住宅市街地と改善に対する要望の高まり

幹線道路をはじめとする都市基盤整備が不十分であるため、慢性的な交通渋滞の発生や、住宅市街地への通過交通の流入、緊急時や防災面での不安、快適性や潤い不足等の居住環境に対する課題も抱えており、区民にとって、よりよい居住環境と生活利便の向上に対する要望は高いと考えられます。

##### ウ 福祉や交流を支える地域コミュニティの発展・継承

住民の転入や、高齢化・少子化の進展に伴い、住民相互の連携を基盤とした交流や福祉に対する要望も今後高まっていくと考えられ、これらを支える地域コミュニティ（地域単位の住民同士の連携）等をより発展・継承していくことが求められるところです。

##### エ 今ある資源を活用したまちの個性化と魅力化

山科区が現在持っている優れた自然・歴史・文化などの資源を活用しながら、更に隠れた資源や魅力を発掘していくことを通して、まちの個性化と魅力づけを行い、地域アイデンティティ（地域らしさ）を確立していくことが期待されます。

### 3 まちづくりの目標

山科区フロンティア計画は「21世紀 躍動とふれあいのまち・山科区」を山科区の将来像とし、その実現のため、長期的なまちづくりの目標として「安心、快適、潤いのまちの基盤づくり」、「キラリと光る魅力を持ったまちづくり」、「パートナーシップで取り組むまちづくり」の3点を掲げています。

区民・事業者・行政の3者がそれぞれの役割を認識し、山科区フロンティア計画を協働で推進するために、平成13年9月、「やましな21」推進会議が発足しました。会議では計画に掲げられた五つの基本施策ごとに部会を設置し、計画の目標年次である平成22年に向けて計画の着実な推進を図っているところです。

そこで、山科フロンティア計画に掲げられた五つの基本施策を、中期的なまちづくりの取組目標として位置付け、取組を進めています。

#### 『山科区フロンティア計画』のあらまし

##### 【将来像】

“21世紀 躍動とふれあいのまち・山科区”

##### 【まちづくりの目標】

「安心、快適、潤いのまちの基盤づくり」

「キラリと光る魅力を持ったまちづくり」

「パートナーシップで取り組むまちづくり」

##### 【基本施策】

- ① 安全で快適に暮らせるまちづくりの推進
- ② すべての人にやさしいまちづくりの推進
- ③ 水と緑と歴史に彩られたまちづくりの推進
- ④ 活気と魅力にあふれるまちづくりの推進
- ⑤ 心ゆたかな暮らしをおくれるまちづくりの推進

##### 【重点施策】

- ① 環境にやさしい循環型のまちづくりの推進
- ② 地域コミュニティの発展・継承によるまちづくりの推進
- ③ 福祉のまちづくりの推進
- ④ 水と緑と歴史のプロムナードの整備
- ⑤ 快適な交通ネットワークの構築
- ⑥ モデル的まちづくりの推進

## 【目標1】 安全で快適に暮らせるまちづくりの推進

私たちが暮らしていくうえで、まず願うことは何でしょう。それは、安心して暮らしていけることです。しっかりとしたまちの基盤を作り、互いに心地よく住み続けていけるまちとなるよう、区民・事業者・行政が協力していくことが大切です。

- (1) 環境にやさしいまちづくりの推進
- (2) 災害に強いまちづくりの推進
- (3) 安心して生活できるまちづくりの推進

### 主な取組実績

- ・ 2万人まち美化作戦の実施
- ・ 住宅用火災警報器共同購入の促進
- ・ 防火見回りたすきリレーの実施



2万人まち美化作戦

## 【目標2】 すべての人にやさしいまちづくりの推進

山科区には、ここに住み・働き・学び・遊び・憩う多くの人々がいます。子どもやお年寄り、障害のある人もない人も、女性も男性も、国籍や民族、生まれや生い立ちに関係なく、すべての人々が交流を進めるなかで、互いに尊重し支えあいながら、生き生きと暮らしていけるようにすることが重要です。

- (1) 人権尊重のまちづくりの推進
- (2) 福祉のまちづくりの推進
- (3) 高齢者への支援
- (4) 障害のある人への支援
- (5) 子育て支援の環境づくり
- (6) 学校・家庭・地域の連携による子どもたちの育成
- (7) 地域医療と健康づくり
- (8) ボランティア活動の支援

### 主な取組実績

- ・ ごみ収集福祉サービスの実施
- ・ 住宅用火災警報器取付事業の実施
- ・ 京都市営地下鉄全駅にAED設置
- ・ やましな子育て支援連絡会の取組



地下鉄駅設置 AED

### 【目標3】 水と緑と歴史に彩られたまちづくりの推進

山科区は、三方を山に囲まれ、市街地の中央を川が流れている自然豊かなまちです。また、人々の営々とした生活のうえに積み重ねられた素晴らしい歴史を持つまちです。これら自然と歴史を継承・発展させていくことは、私たちの生活に潤いをもたらし、山科に暮らすことへの誇りにつながります。

- (1) 公園等の整備推進
- (2) 自然環境や農地の保全と活用
- (3) 水辺の歩行者ネットワークの整備
- (4) 歴史資源の保全と活用

#### 主な取組実績

- ・ さくら募金の実施
- ・ フラワーロード推進事業
- ・ 清水焼団地マップの作成



さくら募金植樹式

### 【目標4】 活気と魅力にあふれるまちづくりの推進

京都の東の玄関口である山科区は、古くから人々が集い交流を重ねてきたまちです。私たちの暮らしには、安らぎとともに、躍動するような活気も必要です。地理的に交通の要衝であるというだけでなく、「人々が集い、にぎわう、魅力あふれるまち」を育んでいくことが大切です。

- (1) 幹線道路網の再編整備
- (2) 人と環境にやさしい交通体系の整備
- (3) 拠点地区の形成
- (4) 幹線道路沿道での都市的景観の創造
- (5) 新たなモデル的まちづくりの推進
- (6) 地域資源の観光活用の推進
- (7) 国家的研究機関の誘致の検討

#### 新ブランド「en」の食器



#### 主な取組実績

- ・ 京都高速道路新十条通の開通
- ・ 渋谷街道の改良
- ・ 新ブランド「en」の立ち上げ
- ・ 観光マップや観光案内板の作成



新十条通山科ランプ

## 【目標5】 心ゆたかな暮らしをおくれるまちづくりの推進

今、私たちの寿命が延び、長い人生をいかに過ごしていくかということが大きな命題となってきました。あわせて、地域社会の中で個々人の果たすべき役割が見直されています。私たちが、長い時間を経て培ってきた地域コミュニティを軸に、山科区の新しい文化を創造していくことがこれからの豊かな暮らしには必要です。

- (1) スポーツ・レクリエーションの振興
- (2) 生涯学習・文化活動の支援
- (3) コミュニティ活動の支援
- (4) NPO活動の支援
- (5) 地域情報の発信
- (6) 行政サービス機能の充実

### 主な取組実績

- ・ 目指せ100冊読書マラソンの実施
- ・ 暮らしの工房「三条街道わくわくホール」の設置
- ・ 蓮如さんへの道 DE 歩行者天国の開催



山科図書館

## 4 平成19年度の取組

平成19年度の山科区運営方針において、特に重点的に取組を進める項目として、3点の重点課題を掲げ、取組を進めました。推進施策ごとの取組状況を紹介します。

### 重点課題1 安心・安全のまちづくりの推進

#### 推進施策 小金塚地域の安心・安全なまちづくりの推進

##### 【経過】

小金塚地域は、地域内の道路、橋梁、公園のほぼすべてが私有地であるため、地元の負担により維持管理する状態が続いています。道路及び橋梁の地元負担を続ける中で、地震等により道路の損壊や橋梁の崩壊が生じた場合、地域住民の避難行動が制限され、大規模災害に至る恐れがあるなど、多くの課題が未解決となっています。

そこで、これらの問題を解決するべく、下記の取組を行いました。

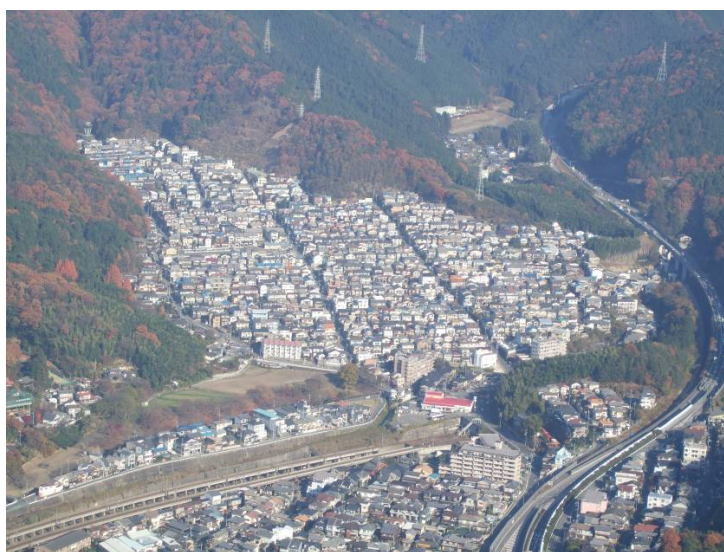
##### 【具体的取組】[担当課：区役所まちづくり推進課、建設局道路明示課]

##### ①私道の移管に係る測量への助成

小金塚自治連合会において、維持管理している道路を京都市の管理する道路とするため、土地の境界確定やそのための測量が行われ、その費用に対して助成を行いました。

##### ②「小金塚安心・安全のまちづくり計画（仮称）」の策定

将来にわたって安心して住み続けるための指針を策定するための準備として、地域の各種団体との協議やアンケートを実施しました。



小金塚地域全景

## 重点課題2 地域が一体となった観光振興策の実施

推進施策：山科区における観光の振興～おこしやす“やましな”協議会への支援～

### 【経過】

山科の魅力为全国に発信し、観光を通じてまちづくりに貢献することを目的として、平成18年9月に「おこしやす“やましな”協議会」が設立されました。

この協議会は、ホームページや移動観光案内所により、観光情報の発信を行っています。

この活動を支援することにより、山科区の魅力を広く発信し、観光振興によるまちづくりを進めるため、下記の取組を行いました。

### 【具体的取組】[担当課：区役所総務課]

#### ①観光振興調査の実施

山科区の観光に関する動向を把握するとともに、山科区の観光資源や行催事等を整理し、山科区の観光の特性を把握するための調査を実施しました。これらの調査で得られた課題を抽出、検討し、報告書を取りまとめました。

#### ②観光マップの作成

山科の魅力を編集した2種類の観光マップを作成しました。

まず、山科に来られた観光客を案内するため、「おこしやす やましな マップ」を作成し、区内の鉄道駅や区役所などで配布しました。

次に、他の地域から山科区に観光客を呼び込むため、「やましな探訪記」を作成し、JR京都駅やホテルなどで配布しました。

#### ③観光案内板の作成

山科の名所を案内するため、2種類の案内板を作成しました。

まず、JR山科駅前に、山科全域の地図及び主要史跡の紹介、交通アクセスを記した観光案内板を設置しました。

次に、区内の史跡6箇所（毘沙門堂、徳林庵、清水焼団地、大石神社、<sup>かじゅうじ</sup>勸修寺、隨心院）に設置史跡の紹介と周辺名所を案内する駒札形式の案内板を設置しました。



2種類の観光マップ  
おこしやすやましなマップ  
やましな探訪記



JR山科駅前設置案内板



史跡設置案内板

## 重点課題3 美しいまちづくりの推進

推進施策：山科区みんなでまち美化NO. 1作戦，フラワーロード推進事業の充実

### 【経過】

山科区では，環境にやさしい取組として，毎年6月に区内全世帯の約3分の1（約2万人）が参加し，清掃活動を行うという，他都市にも例のない大規模なまちの清掃活動「山科区2万人まち美化作戦」が行われています。

また，秋にも環境美化活動に取り組んできましたが，家庭ごみ袋の有料化及び「プラスチック製容器包装」分別収集の導入に合わせた取組（「山科区ごみ出しマナーNO. 1宣言」）が推進されています。

その他，山科区を花と緑で潤いのあるまちにするため，区役所庁舎前花壇の整備や幹線道路の街路樹柵等に花を植栽するフラワーロード推進事業が進められています。

これらの事業を更に推し進め，美しい山科区にするため，下記の取組を行いました。

### 【具体的取組】[担当課：区役所まちづくり推進課]

#### ①山科区みんなでまち美化 NO. 1 作戦

平成19年度の「山科区2万人まち美化作戦」では，20.5tのごみを収集しました。また，「山科区ごみ出しマナーNO. 1宣言」では，ごみの収集地点において，プラスチック製容器包装の分別収集が適正に行われているかの調査を行いました。また，この調査で得られた分別状況や要望等は，まち美化事務所などに提出されています。

#### ②フラワーロード推進事業

平成20年の京都高速道路の開通に向け，新十条通トンネルまでの街路樹柵にガゼニアの植栽を行ったほか，区役所，保健所前の花壇に季節の花を植栽しました。

ごみ出しマナーNO.1作戦



新十条通への植栽



区役所前花壇への植栽



## 5 平成20年度の重点課題

山科区では、山科区基本計画推進組織「“やましな21”推進会議」や山科区自治連合会連絡協議会総会「明日の山科を考える」での区民意見の集約状況を踏まえ、山科区役所経営会議及び山科区行政推進会議において、山科区における行政重点課題の検討を行い、平成20年度に重点的に取り組むべき項目の抽出を行いました。

今年度は、特に平成20年度山科区行政重点課題として3点を抽出し、この課題解決のための施策に重点的に取り組みます。

### ～平成20年度山科区行政重点課題～

- ① 住民参加で取り組むまちの魅力再発見
- ② 地域の特色を生かした観光資源の開発
- ③ 安心・安全のまちづくりの推進

## 重点課題① 住民参加で取り組むまちの魅力再発見

### 課題解決のための施策

#### 未来へつなぐ「山科区民文化財（仮称）」の選定

##### 【現状】

山科区は、美しい自然とともに、歴史、文化、伝統、産業等が、個性あるまちの魅力を際立たせています。これらは、区民の方々の不断の努力により今に受け継がれていますが、時代の移り変わりとともにその輝きが損なわれかねません。

これまで山科区では、公募による区民委員を中心に京都橘大学の協力を得て、平成15年度には区内の魅力ポイントを歩くコースを紹介した『レッツ ウォーク やましな ホップ・ステップ・マップ』を発行、平成17年度には山科のまちの移り変わりを未来に残す写真集として『モノクローム ヤマシナ』を発行し、いずれも大変な好評を博しました。また、平成18年度には区誕生30周年を迎え、区の魅力再発見しようとする機運が高まり、記念誌『古今相照』の発行をはじめ、数々の記念事業をすべて区民参加で企画、実施してきたところです。

##### 【施策・事業の概要】（平成20年度～22年度）[担当課：区役所まちづくり推進課]

これらの取組により培われた区民の方々の自主的な活動力と区民ならではの情報力を生かし、区民の方々が親しみ、誇りとする山科の魅力を歴史、自然、文化、伝統、産業等の分野ごとに「山科区民文化財（仮称）」として選定し、未来に引き継ぐとともに、これらの魅力をより深く味わっていただくための取組を行います。

この「山科区民文化財（仮称）」は、新旧、有形、無形を問わず、幅広く募集するものとし、また、既存の事物に限らず、新しい魅力や埋もれた魅力の発掘にも取り組みます。

平成20年度は、公募委員等による「山科区民文化財委員会（仮称）」を設置し、文化財候補の募集、選定などに取り組みます。

その後、平成22年度までに解説リーフレットの作成や発行、共通の案内板の設置などに取り組みます。

## 重点課題② 地域の特徴を生かした観光資源の開発

### 課題解決のための施策

## 源氏物語千年紀事業「源氏物語の夕べ<sup>かじゅうじ</sup>in勸修寺（仮称）」 山科観光 PR 事業

#### 【現状】

源氏物語の存在が、記録上確認されてから、平成20年に一千年を迎えることを受け、各種団体において、様々な記念事業が実施されています。

山科区においては、紫式部にゆかりのある史跡として「勸修寺」（勸修寺は醍醐天皇が母の藤原胤子を弔うために、胤子の母列子の実家である宮道邸を寺とした門跡寺院。列子は紫式部の四代前に当たる。）があります。また、この列子とその夫である藤原高藤の山科での出会いは、今昔物語集に記されており、紫式部は、この話を参考に源氏物語の「明石の君」を書いたと言われています。

しかし、市内中心部や宇治市等と比較すると、この源氏物語との関連性をはじめ、美しい自然と伝統を有する山科の魅力が、観光客はもとより区民の方々にも十分に知られていないのが現状です。

#### 【施策・事業の概要】 [担当課：区役所総務課]

源氏物語千年紀事業として、勸修寺境内での講演会などの事業を実施することにより、記念すべき年のお祝いの機運を山科区においても一層高めるほか、平成19年度に作成した観光マップなどを活用し、観光資源としての山科の魅力を広く発信します。

これらの事業の実施に当たっては、山科区らしさを大切にするため、企画段階から平成18年度に設立された山科区の観光振興組織である「おこしやす“やましな”協議会」との連携・協力の下、行うこととし、観光振興によるまちづくりを推進します。

## 重点課題③ 安心・安全のまちづくりの推進（継続）

### 課題解決のための施策

#### 小金塚地域の安心・安全なまちづくりの推進（継続）

##### 【経過】

平成19年度に引き続き、下記の取組を実施します。

##### 【具体的取組】〔担当課：区役所まちづくり推進課，建設局道路明示課〕

###### ①私道の移管に係る測量への助成

平成20年度以降も、引き続き移管に向けた分筆のための測量費用に対する助成を行います。

###### ②「小金塚安心・安全のまちづくり計画（仮称）」の策定

平成20年度は、まちづくり組織の構築，まちづくり行事の開催などを通じ，まちづくり計画の策定を図ります。

## 6 その他の山科区主要事業

平成20年度京都市予算から山科区関連の主な事業を、分野別に御紹介します。

### 《道路・街路等》

- ・交通安全施設整備：市道勸修寺日ノ岡線（測量設計）
- ・道路改良：市道渋谷蹴上線（測量設計）  
市道小山大宅線（トンネル建設及び道路整備）
- ・私道認定事業（道路用地分筆測量費助成）

### 《河川》

- ・都市基盤河川改修事業 西野山川  
旧安祥寺川

### 《環境》

- ・焼却灰溶融施設整備（東部山間埋立処分地内の溶融施設の整備）

### 《住宅》

- ・山科市営住宅トータルリモデル事業（居住性向上を目的とした改善工事）

### 《福祉》

- ・特別養護老人ホーム「京都積慶園（仮称）」建設助成
- ・児童館「西野（仮称）」整備等（設計）
- ・保育所「万因寺保育園」整備助成（老朽改築）

### 《産業》

- ・京の杣人（そまびと）工房事業

### 《上下水道》

- ・旧安祥寺川第2準幹線改良工事
- ・第1疏水路増強
- ・新山科浄水場導水きよ改良工事

### 《生活安全対策》

- ・地域の安心安全ネットワークの助成

### 《地域振興対策》

- ・小金塚地域の安心安全なまちづくりの推進
- ・未来へつなぐ「山科区民文化財（仮称）」の選定
- ・源氏物語千年紀事業「源氏物語の夕べ in 勸修寺（仮称）」

# 21世紀 躍動とふれあいのまち・山科区

平成20年度山科区運営方針

平成20年6月  
山科区役所区民部総務課

〒607-8511 京都市山科区榊辻池尻町14-2  
TEL 075-592-3066 FAX 075-502-1639  
URL <http://www.city.kyoto.lg.jp/yamasina/index.html>